

## 令和4年度第8回 稲武地域まちづくり推進協議会 議事録

日 時	令和4年11月22日（火曜）午後6時00分～7時45分
会 場	稲武支所2階 団体会議室

### 1 あいさつ

○大内会長

稲武もみじまつり、WRCのイベントが開催された。関係する皆さんはお疲れ様でした。もみじまつりは、後ほど詳細の報告をするが、来場者が約30,000人、シャトルバスの利用者が約3,000人だった。イベント開催時は、大井平公園や道の駐車場に駐車ができないような状態だった。皆で意見交換しながら課題解決を進めたい。

### 2 協議事項について

#### (1) 各団体からの現在の取組、課題などの発表について

##### ①どんぐりの里いなぐ

佐藤委員；

- ・6月までは、コロナ禍以前の売上を超えることができなかったが、リニューアルオープンした7月は過去最高額の売上を記録できた。また、その後、10月は温泉が休業中であるものの、横丁の来訪者は約41,000名であった。11月も順調である。
- ・令和2、3年度は2期連続で赤字であったが、令和4年度は10月までで950万円の黒字となっている。リニューアル効果が表れているので、地域商社としての役割を果たしていきたい。
- ・現在、長寿命化改修工事を行っている「どんぐりの湯」は、1月6日（金曜）午前10時の営業再開を予定している。

<質疑応答>

松井晃委員；温泉の関係であるが、浴槽は改修されるのか？

⇒佐藤委員；今回の工事では、浴槽などは改修しない。同時に修繕作業を部分的に実施する。

山田副会長；多目的広場は今後どのように活用していくか？

⇒佐藤委員；今後の展開は検討中。ただし、秋の繁忙期における駐車場として、かなり利用されていた。

藤綱副会長；社員による、誘客に向けた努力として行っていることは何かある

か？

⇒佐藤委員；近隣のキャンプ場をまわって、割引券の配布をした。また、SNSによるPRをしている。ホームページへのアクセス数は前年度比150%になっている。

⇒藤綱副会長；以前、自分がどんぐりの里に勤務している際は、老人クラブの会合に出向いて営業活動をしていた。今の社員は甘いと思う。半官半民の世界にあぐらをかいているのではないか。

⇒佐藤委員；自分が着任した際は、社員の声出しができていないと感じた。利用者が喜ぶ取組に関する検討が足りなかったと思う。まずは笑顔による接客を徹底することを社員に呼び掛けてきた。徐々に、社員の声出しが増えてきた。藤綱副会長が言われる、外へのセールスは次の段階だと認識している。

大内会長；テナント店舗のどんぐり亭が撤退する話はいつごろからあったのか？

⇒佐藤委員；自分は10月中旬に初めて知った。

⇒山田副会長；どんぐり亭の次のテナントについては、稲武商工会としても応援している。地元事業者から応募がある場合は、市との交渉などについて支援していきたい。

## ②オープンイナブ実行委員会

横田委員；

- ・単刀直入に言うと、従業員の確保を目的として事業を開始した。豊田市合併10周年事業である「ミライのフツー チャレンジコンテスト」に応募し、当初は工場の一般公開からスタートした。各種イベントを実施したが、想定した若年層の集客に繋がらないことが課題となった。
- ・2016年からは、稲武の資源である「山」に着目して、マウンテンバイクの事業を開始した。財産区への説明会やお役作業への参加、伊豆の「Yamabushi Trail」の研修会を行った。特に、お役作業については、参加費を払ってでも参加したいという希望者も出る収穫もあった。また、参加者から寄付金を徴収し、地元自治体に寄付することで地域振興につなげることも意識している。これらの取組を通じて、週3日は事業所で働き、週2日はツアーガイドを行う働き方に賛同する若者の移住につなげている。
- ・空き家がすぐに出てこないこともあり、旧稲武町教員住宅を市から借り受け、若者向けの寮として管理している。6戸全てが開設当時から満室になっている。
- ・今後も、開かれて持続可能な中山間地域のモデルとして、新しい人と地元の人が共存するコミュニティを目指して活動していきたい。そのためには、①地域

資源の魅力を発掘し、②独自のやり方で情報発信し、③仲間を増やすことが大切だと考えている。

- ・おいでんさんそんセンターのホームページに、「縁側」という移住した人の話が掲載されている記事がある。初刊号が、トヨタケ工業の遠藤君の記事になっているので紹介したい。
- ・ロジックモデルの資料については、地区の資源を成果にどのように結びつけるかをまとめた「羅針盤」の位置づけで作成した。最終目標である「人が集まり、価値創造がされ、持続的に生活できる地域となるリアルコンパクトタウン」になるために、「遊び場の提供」「働く場の提供」「住む場の提供」が必要になるが、これらをいかに作っていきけるか、地域側の努力が必要な部分について紹介したい。

次回は、ファームいなぐ、定住促進協議会が発表する。

### 3 各種話題提供について

#### (1) ワーキング部会、各委員からの報告

村瀬いなぐ観光協会事務局長；

- ・稲武もみじまつりの開催状況について報告したい。結果としては盛況に開催できたと思う。大井平公園だけではなく、稲武を面として楽しんでもらえるような取組を目指してきた。
- ・11月12日（土曜）はかなりの人出があり、国道257号沿いに路上駐車をされてしまった。また、氷瀑側の市道でも縦列駐車が目立った。稲武の場合、駐車場に余裕がないため、何かイベントをしようとする、施設の利用者が減ってしまうという問題がある。
- ・ライトアップについても盛況で、昨年度までと違い、夜6時以降でも大井平公園の駐車場に駐車する車が多い。ライトアップを見に来た人たちに、稲武のまちなかでの飲食や温泉利用の周知がもっとできるとよいと考えている。
- ・国道257号沿いの草刈りがされておらず残念だった。多くの来訪者があるのに見苦しく感じた。管理者間での情報共有が課題であると感じた。

<質疑応答>

杉田委員；大井平公園やタカドヤ湿地に出店したい場合はどのようにしたらよいか？出店したいのに案内が来ない。地元の事業者でも発展会に所属していないと出店できないのか。せめて観光協会の会員には案内してほしい。来年度からそのようにしてほしい。

⇒村瀬氏；色々経緯があるようだ。確認したい。

杉田委員；WRCの際も、道の駅多目的広場にキッチンカーが出店していたが、どのようにすれば出店できるのか？稲武の事業者には声がけてほしい。

⇒三江副会長；今回のWRCについては、大会本部からの情報提供が遅かった。観戦エリアについては、稲武商工会に声がけし、青年部が手をあげて出店することになった。多目的広場については、今回が初めての取組であり、また、平日開催であったため、売上予測がつかず、地元事業者に迷惑をかけてはいけな

いと考え、今回は地域外の事業者に出店することとなった。来年度は、WRCの主催者が市になり、また、週末の開催を強く要望しているため、地元事業者

に声がけできるようにしていきたい。

⇒山田副会長；地域にお金が落ちることが大切であるので、情報共有を求めたい。  
古橋久三委員；もみじまつり期間終了後も、大井平公園には来訪者が多く来ていた。バザー出店はもみじまつり期間が過ぎると不可なのか？

⇒村瀬氏；そのようなことはない。発展会が出店期間を決めている。

⇒山田副会長；出店する側としては、売上見込みが立たないと動けないことも理解いただきたい。

山田副会長；農業試験場付近の草刈りをしてほしい。子どもが滑って転んでいたのを見た。

⇒古橋久三委員；自分が自治区長だった時には、工事申請を提出して県に草刈りをしてもらっていたが、今は工事申請をしていないのかな。草刈りよりも除草剤の散布の方が効果があると思う。

⇒大内会長；国道沿いは交通量も多いし、素人での草刈りは難しい。

⇒松井弘光委員；要望は年度当初に相談しておいた方がよい。

⇒藤綱副会長；区長会で保険加入していることもあり、環境美化の際に草刈りをすればよいと思う。

⇒古橋真人委員；農業試験場と国道の間にある斜面は古橋会の土地であり、当方の管理が行き届いていないことは白状するが、適正な管理が難しいところなので、環境整備の一環で県に管理してもらえるとありがたいと感じる。土地の寄付を申し出たが受け取ってもらえなかった。

古橋久三委員；WRC時の駐車場については、トヨタケ工業の駐車場を利用できるので活用を検討してください。

ところで、道の駅駐車場の警備員は全くダメだ。教育がなっていない。

三江副会長；WRCの駐車場で評判が良かったのは岩村のようだ。インターネットで満車情報を発信していた。

中村委員；「いなぶ ふくしの教室」を12月16日（金曜）に開催する。介護人材の確保が目的である。よろしくお願いします。

藤綱副会長；令和5年4月から県営夏焼住宅が市営住宅になる。全10戸のうち、4戸しか入居がない。家族世帯なら入居しやすいとのこと。

尾形副主幹；WRCの開催時の状況について報告したい。稲武地区では、11月11日（金曜）に開催された。SS3は、SS2での車両火災によりキャンセルになってしまった。道の駅イベント広場への来場者は約1,800名、リエゾン応援者は約500名、黒田観戦エリアには約400名の集客があった。黒田観戦エリアでは、稲武商工会青年部による出店があった。道の駅イベント広場では、パブリックビューイングの実施のほか、WRCオフィシャルグッズの販売があった。多目的広場にはキッチンカーが出店された。

リエゾンでは、中学生、小学生、こども園児等による手旗応援のほか、民謡を踊る会による盛り上げがあった。

経済効果としては、観戦客にお買物券として、地区内で使用できる金券を配布した。また、ラリースタッフ向けに、いなぶ Rally 弁当を販売した。宿泊についてもラリー関係者により地区内の宿が利用された。

次回に向けては、駐車場問題の課題解決に取り組んでいけたらと思う。

三江副会長；補足したい。金曜日の開催となり、客の入込状況を見込むことができなかった。一方、ラリー競技に対する熟知度は他地区よりも強かったと認識している。

稲武地区のSSのうち、1回がキャンセルになった。黒田の観戦者からはクレームが出てしまうのではと思われたが、ラリーとはこういうものだということでクレームが無かった。ただし、スポンサーの関係者1人が苦情を言っていたようだが。

リエゾンについては、朝は中学生が来てくれた。リエゾンもキャンセルになるのではないかと危惧されたが、マーシャル間の連絡で、稲武のリエゾンだけはなんとか通せという話になり実現した。これは、これまでの取組があったからこそだと思う。

ラリーによるまちづくりの目的について、1点目は地域にどれだけお金を落としてくれるかである。具体的には、稲武商工会員店舗で使用できる金券の配布である。2点目は、稲武の子どもたちに生のラリーを見せてあげて、車などのものづくりに興味関心を持たせたい点である。民謡を踊る会は、WRCの公式ツイッターで100万回を超す再生回数になっている。

今回の反省点についてはまた報告したい。

杉田委員；ブルーベリーのこみちには、外国人の方が何人も来た。SSが中止になったので来られたとのこと。地区内の飲食店などが分かる仕組みがあるとよい。また、民謡を踊る会については、ブルーベリーのこみちで上映会を行った。会員さんからは、ラリーカーに手を振ったことで、稲武の民謡がきっちり踊れていなかったことが嫌だと言っていた。

古橋久三委員；ボランティアの誘導係は、トヨタの社員が有給休暇を取って行っていた。稲武からもボランティア募集があってもよいと思うので要望したい。  
⇒尾形副主幹；令和5年度は、市が主催に入るなので、その辺りの情報も早くつかめるようになるとういと思う。

横田委員；稲武町交差点のところで様子を見ていたが、国道153号は豊田市方面から来て、まっすぐ進むと右折レーンになる。大野瀬方面に行くためには、左寄りによらないといけないこともあり、交差点でぶつかりそうになっているところを見たので改善できるとよい。

#### 4 次回開催日

令和4年12月20日（火曜）午後6時～ at 稲武支所団体会議室

<以 上>